

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 中村 友之  あて名 〒105-0001 日本国東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴 平タワー 三好内外国特許事務所内		様  PCT 国際調査機関の見解書 （法施行規則第40条の2） [PCT規則43の2.1]	
出願人又は代理人 の書類記号 JSONY-721PCT		発送日 （日.月.年） 13.12.2005	
国際出願番号 PCT/J P 2005/015350	国際出願日 （日.月.年） 24.08.2005	優先日 （日.月.年） 30.08.2004	
国際特許分類（IPC）Int.Cl. <b>H04N5/91</b> (2006.01), <b>G11B27/00</b> (2006.01), <b>G11B20/10</b> (2006.01), <b>G11B20/12</b> (2006.01), <b>H04N5/76</b> (2006.01), <b>H04N5/85</b> (2006.01)			
出願人（氏名又は名称） ソニー株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 05.12.2005			
名称及びあて先 日本国特許庁（ISA/J P） 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官（権限のある職員） 豊島 洋介 電話番号 03-3581-1101 内線 3541	5C 9850

## 第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

☒ 出願時の言語による国際出願

☐ 出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、  
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 紙形式

☐ 電子形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれていたもの

☐ この国際出願と共に電子形式により提出されたもの

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第Ⅴ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての P C T 規則 43 の 2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-14	有
	請求の範囲		無
進歩性 (I S)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-14	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-14	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献 1: W O 2003/079359 A1 (シャープ株式会社) 2003. 09. 25  
第 17 頁, 第 9 行目-第 21 頁, 第 45 行目 (ファミリーなし)

文献 2: J P 2000-155998 A (株式会社日立製作所) 2000. 06. 06  
段落【0022】, 第 4 図 (ファミリーなし)

文献 3: J P 2000-82276 A (株式会社東芝) 2000. 03. 21  
段落【0152】  
& US 2002/186961 A1 & EP 929072 A2  
& CN 1219727 A

請求の範囲 1-14 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 と文献 2 とにより進歩性を有しない。文献 1 には、画像データから取得した画像情報を画像情報データとして記録媒体に記録する画像情報記録装置が記載されており、文献 2 には、画像データから取得した画像情報を所定の単位のグループとして記録するとともに、再生時には入力に基づいて対応する代表画像を取得して一覧表示し、選択に応じて対応する画像データの再生を行う点が記載されており、文献 1 における画像情報の記録再生の管理を文献 2 に記載の所定単位で行うようにすることは当業者にとって容易である。

## 第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 8 において「前記画像情報ファイルグループ」と記載されているが、当該記載の前段において、「画像情報ファイルグループ」について何ら記載されておらず、「前記」との記載が不明瞭である。